

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100035		
法人名	株式会社 ひまわり		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-27		
自己評価作成日	平成31年1月1日	評価結果市町受理日	令和 1年 6月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的に自立している利用者が比較的多く、レクリエーションやゲーム、外出などある程度の提案はしつつ、本人たちの自主性に任せて職員は側面的に支援している。ドライブがてらの外食では町外に足を伸ばし、地域ごと、季節ごとの食事を味わえるようにしている。 栄養士による栄養管理、看護師による健康チェック、主治医の往診、専門外の科では近医の大島病院にて対応している。 管理者にはデスクの日を設け、事務作業に集中できる日を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

テレビの視聴(歌番組、ニュース)、DVD(紅白歌合戦)の視聴、読書、習字、カレンダーの日めくり、季節の作品づくり、ぬり絵、折り紙、カラオケ、歌を歌う、トランプ、カルタ、百人一首、しりとり、輪投げ、ボーリング、棒体操、テレビ体操、脳トレ(漢字、計算、ことわざ)、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の手伝い(テーブル拭き、野菜の下ごしらえ)、季節の行事(節分の豆まき、クリスマス会、花見)、利用者の家族によるマンドリンの演奏会など楽しみごとや活躍できる場面づくりをされ、近所への散歩や受診時の買い物、ドライブ、花見、潮溜フェスタの見学、神社の参拝など、月に1回は外食に外出されているなど、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しております。食事は、法人の栄養士の献立に基づいて、配達食材や旬の食材を使って、三食とも事業所で調理されています。利用者は、下ごしらえやテーブル拭き、盆ならべ、盆拭き、配膳、お茶くみ、下膳、食器拭きなどできることを職員と一緒にされ、利用者と職員は同じテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しまれています。正月のお節料理の他、雑祭りや七夕、クリスマスケーキのトッピング、誕生日会のケーキづくり、おやつづくり、ドライブを兼ねて月1回外食に出かけられるなど、食事が楽しめる支援をされています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に理念について話し合い、出入り口に張り出し、共通認識として常に意識づけができるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、ミーティングで話し合って確認し、理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員や利用者の関係者からのボランティアの受け入れ、中学生の職場体験、小学校の運動会の見学にて自然と交流している。	自治会に加入している。利用者は、日々の散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、神社への参拝、小学校の運動会の見学に出かけて地域の人と交流している。マンドリンなどの楽器演奏や踊りのボランティアが来訪し交流している他、隣接している法人のグループホームに出向き、利用者同士で交流している。	・地域との付き合い方の工夫	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日々の活動写真を載せて出席者に発信している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に関する書類を各職員に配布し、記入したものを管理者がまとめている。ミーティングにて外部評価の意義について話している。	管理者がミーティングで評価の意義を説明し、全職員に評価をするための書類を配布し、個々に自己評価に記入後、管理者がまとめている。自己評価を実施することで、利用者の個別ケアの振り返りができている他、災害時の体制や対応について話し合っているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の運営推進会議の実施にて活動報告、事故報告をし、出席者の意見を踏まえてサービス向上に努めている。	会議は法人他グループホームと合同で年6回開催し、利用者の状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の報告、職員の入退職状況を報告し、意見交換を行っている。会議には家族や地域から自治会長、民生委員が参加し、そこでの意見をふまえてサービス向上に努めているが、運営に反映するまでには至っていない。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席者として地域包括センターの職員に意見を伺っている。	町担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接に出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築いている。今年度は、タンカー衝突事故による断水時に給水や清拭用具支給など、適切に連携が取れている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に二回、ミーティングの時に内部研修として身体拘束に関する勉強会を開いている。玄関の施錠は利用者が玄関の前に立ち止まっていたり要望があれば職員同行の上解錠している。	「身体拘束等に関する手引き」に基づき、身体拘束等適正化委員会を運営推進会議に合わせて毎回開催して、身体拘束について話し合っている。職員は、年2回の勉強会で身体拘束について学び理解している。勉強会の資料は、職員個々のファイルに閉じてあり、いつでも振り返ることができる。玄関は施錠しているが、利用者が外に出たい時は職員が一緒に出かけて、散歩したり、外のベンチで談笑したり、日向ぼっこをするなど利用者が閉塞感を持たないように配慮している。スピーチロックについては、スピーチロックをなくす取り組みとして事例を通して勉強している。気になる言動は職員間で注意しあったり、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議の題材としても挙げて関係者から意見を聞けるようにしている。また、職員間でも報道で取り上げられる度にミーティング時に話し合えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について話し合える機会を設けていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や重度化に係る指針について十分な説明を行い、相手側の意見も聞いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制を整えており、契約時に説明している。ケアプランの説明時、運営推進会議時、面会時等に意見や要望を聞いている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族へ説明している。運営推進会議出席時やケアプランの説明時、面会時、電話で家族の意見や要望を聞いている。2ヶ月に1回事業所だよりを送付して近況を報告し、家族からの意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。玄関に意見箱を設置している。個別のケアに対する要望はその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティング時に職員らの疑問や意見を聞いてボトムアップを図り、代表者や施設長は日常業務の中で個別に意見を聞いている。	月1回のミーティング、年1回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の申し送り時など日常業務の中で聞いている。代表者が随時職員に声をかけて意見や提案を聞いているが、運営に反映させるまでの意見や提案は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士などの資格取得を推進している。残業時間は利用者の緊急事態等以外は皆無に近い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては職員の希望を聞いて参加できる用意をしている。内部研修としてはミーティング時に行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。ミーティングに合わせてマニュアルの確認や見直し、ハザードマップの確認、ノロウイルスなど感染症、身体拘束、プライバシー保護、緊急時の対応(タッピング、骨折の処置)など、その時のテーマに合わせて勉強会を実施している。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者というか他のユニットの職員とは自然と交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できあがっているグループに入っていく不安や心配事を職員間でも共有し本人視点で寄り添えるよう配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安感や要望を十分に聴き入れ、ケアプランの中にも組み込んでいっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとってのプライオリティを察知し、必要なものを取り入れて対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という立場を超えてフラットな関係で接してもらい、その中でも職員は尊敬する高齢者として接している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員との関係性が良好になるよう自然に会話できるよう心掛けている。その中で一緒に支援していく仲間としての意識づけをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会だけではなく、慣れ親しんだ友人、知人、地域の方たちが気楽にホームに立ち寄り談話をしている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、元職場の同僚、近所の人々の来訪がある他、年賀状での交流を支援している。馴染みの店での買物や受診時に懐かしい人と交流している他、家族の協力を得ての外出や買い物、法事への出席など、これまでの馴染みの人や場所の関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の個性を吟味し、調和のとれた関係になりやすくするため、ホールでの席の移動などをこまめに行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしなが、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで一旦契約が終了しても、また当ホームに帰られてくるパターンもあり継続的にフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で本人の思いを自然に聴いていくようにしている。本人の発した言葉などを記録に書き、その発した言葉から伺えることをミーティング時等に話し合っている。	入居時のアセスメントシートや入居時相談面接記録を活用している他、日々の関わりの中で利用者の様子を介護健康記録に記録し、ミーティングで話し合っ、思いや意向の把握に努めている。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バイタルや食事量を書き込む表に一覧として生活歴を載せている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズム、心身状態の把握に努め、個人個人のポテンシャルを引き出せるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間ではミーティング時に話し合い、家族の方が面会に来られた時には家族に意向、意見を聴き、それを踏まえて管理者が計画を立てている。	利用者や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして、計画作成担当者を中心にして毎月のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態に変化がある時は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン上のケアの主な実践計画を介護健康記録に挙げてチェックできるようにしている。また、定期的に本人の状態を見て見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が利用者の受診の付き添いに来られたついでの外食や買い物に柔軟に対応できるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のイベント事の見学に行ったり、近く的美容院に来てもらい、おしゃれを楽しめるよういろいろな刺激を得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所手続きの際に今までのかかりつけ医を継続して利用できるように話し合い、かかりつけ医がなければこちらの協力医につなげていけるようにしている。	これまでのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としており、それぞれのかかりつけ医による定期的な訪問診療がある。かかりつけ医への定期的な受診や他科受診についても事業所で支援しているが、家族の協力を得ることもある。受診結果は、電話や面会時に家族へ報告している。週1回看護師による健康管理を行っている。緊急時や夜間は管理者を中心に協力医療機関へ連絡して指示を仰ぎ、必要に応じて救急車で対応するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活を第一線で共に過ごしている自覚をしていき、看護師や主治医に現状を伝えていけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはサマリーを作成し医療機関に出向き情報交換をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、利用者の重度化に対する指針の同意を得ている。重度化した場合には主治医と家族と話し合い、今後の方針を決めていき共有している。	契約時に重度化や終末期に向けて事業所ができる対応を家族に説明し、「利用者重度化対応の指針に係る同意書」により同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族や主治医と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移設を含めてチームで取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者個人個人の状態に対して迫りくる危険性のある事故についてミーティング時に話し合っている。看護師による手当等の教授も受けている。	事例が発生した時には、インシデント・アクシデントレポートに発生状況や発生場所、対応と経過、今後の対応を記録し、その日勤務している職員で対策を話し合い、記録を回覧して共有している。月1回のミーティングで再検討して、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。週1回、日勤勤務職員を中心に看護師からの応急処置の実践訓練を実施しているなど、日常業務の中で指導を受けているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、消防士に疑問点不安点などを質問している。ハザードマップの説明、避難場所もミーティング時に話し合っている。	消防署の協力を得て年1回、デイサービスと合同で、昼間を想定した火災時の避難訓練を実施している。訓練は、通報、避難、消火訓練を実施している。各居室の入り口の名札で避難済みの確認をしている。ハザードマップを活用して津波やがけ崩れなど、災害時の避難場所をミーティングで話し合い、近所に住んでいる消防士と情報交換をしたり、災害訓練に地域からの参加や避難場所の確認など運営推進会議で話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。水や乾パン、缶詰など備蓄している。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの日本を支えてきてくれた年配者ということを念頭に尊敬の念を持って対応している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応については管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好きな時間の使い方ができるよう利用者のペースに合わせて対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水を利用している方もおり、お出かけの際や入浴後の身だしなみは自分で選択できるようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立に基づいて調理をする過程で、利用者にもやしのヒゲ取り等、できそうなことをしてもらっている。テーブル拭き、配膳下膳も意欲的に行っている。	法人の栄養士がたてた献立に基づき、配達される食材や旬の食材を使って三食とも事業所で調理している。利用者は、下ごしらえやテーブル拭き、盆ならべ、盆拭き、配膳、お茶くみ、下膳、食器拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食事でテーブルを囲み会話しながら食事を楽しんでいる。正月にはお節料理、節句、雛祭り、七夕、クリスマスケーキのトッピング、誕生日会のケーキづくり、綿菓子やホットケーキなどのおやつづくり、ドライブを兼ねて月1回の外食の他、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援	栄養士による栄養管理がされている。食事		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理ができていない三食を提供できている。コーヒータイム、おやつ の時間、入浴後の水分摂取など意図的に自然に水分補給できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には緑茶にてうがいをしてもらっている。就寝前には義歯洗浄など口腔ケアの介助が必要な方には介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者それぞれ自分の尿意が催した時に行っている。トイレ間隔が長い方や夜間などは声掛けや誘導にて定期的に排泄できるようにしている。排泄があれば記録に残している。	介護健康記録を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や行進など適度な運動を取り入れ、腸の蠕動運動になるようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前、午後に分けて入浴の時間を設けて声掛けをして入浴に誘っている。その時その時の各人の気分もあるので後からまた誘うなど柔軟に対応している。	入浴は毎日、10時から12時、13時から15時の間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、2日に1回は入浴を楽しむことができるよう支援している。利用者の状態に応じて清拭、シャワー浴で対応している。入浴をしたくない利用者には、タイミングに合わせた言葉かけや時間を変更するなどして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に至るまで皆と雑談をしたり、ソファで読書やテレビ観賞をしてゆったりと過ごせれるよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、薬の確認ができよう、効用を確認できる薬の表を見ながら配薬している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合ったレクリエーション、本人の能力や経験が発揮できるゲームなどを取り入れて気分転換できるようにしている。	テレビの視聴(歌番組、ニュース)、DVD(紅白歌合戦)の視聴、読書、習字、カレンダーの日めくり、季節の作品づくり、ぬり絵、折り紙、カラオケ、歌を歌う、トランプ、カルタ、百人一首、しりとり、輪投げ、ボーリング、棒体操、テレビ体操、脳トレ(漢字、計算、ことわざ)、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の手伝い(テーブル拭き、野菜の下ごしらえ)、季節の行事(節分の豆まき、クリスマス会、花見)、利用者の家族によるマンドリンの演奏会など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、喜びのある日々が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば外へ出て散歩に付き添うようにしている。薬局などに薬を取りに行くのに一緒に出掛けたりしている。月に一度のペースではあるが外食やドライブに外へ出る機会を設けている。	近所を散歩したり、受診時の買い物、ドライブ、花見(桜、コスモス)、渦潮フェスタの見学、神社の参拝、月1回の外食、家族の協力を得て外食、外出、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理しており、個人では所持していない。外食、外出時、個人的な必要物品があればその都度引き出している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望によりこちらから掛けたり、掛かってきた時には本人に取りつないでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主に共用の空間としてホールが挙げられるが、そこでは季節に応じた花や掲示物、置き物を揃えていき、加湿器による湿度の調整、換気による空気の入れ替えを柔軟に行っている。	玄関には、季節の花を飾り、リビングにテーブルや椅子、ソファ、畳ベンチ、テレビ、ラジカセ、雑誌が置いてあり、キッチンからは食事をつくる匂いや音がして生活感がある。壁面には、行事の時の写真やぬり絵、習字、利用者と一緒につくった季節の作品が飾ってある。温度、湿度、換気に配慮し、利用者が心地よく過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で皆で食事をし、気の合う利用者同士が集まってお話をされたり、ソファに座って読書やテレビ観賞などをしてそれぞれの過ごし方をされている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の在宅生活からの家具や掲示物、写真などをそのまま当ホームでも利用してもらい、自宅のような雰囲気づくりをしている。	タンス、衣装ケース、テレビ、時計、椅子など利用者が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、写真やカレンダー、造花を飾り、備え付けの洗面台には洗面用具や化粧品を置き、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。各室には加湿器を整備している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴場、居室には自身の名札を掲げており、自立に近い生活ができていることを感じてもらっている。また、ホーム内の全域に手すりを設置しており安心して移動できるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム こすもす

作成日: 令和 元 年 6 月 14 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	中学生の職場体験や近隣小学校の運動会参加など受動的なスタンスが多い。地域の方との会話を通じて積極的に地域に交流をしていきたい。	もっと事業所自体が地域に溶け込めれるように地域を掘り起こしていく。	回覧板などを見て地域行事の参加や関われる事を模索していく。地域の人に話を聴いていたり地区の掃除などに参加して当ホームの存在を意識してもらえるようにしていく。	12ヶ月
2	5	家族や自治会長、民生委員が参加し、意見を活かしているが、運営に反映するまでには至っていない。	運営推進会議を利用していろんな方からの意見を聞いていき、サービス向上や運営に反映できるようにしていく。	運営推進会議の出席者の継続的な出席を可能にしていき、また出席者を増やしていけるよう婦人会や地域住民、家族へのアプローチをしていく。	12ヶ月
3	24	介護健康記録として時系列的に他者との絡みなどが見れるようにしているが個人個人の思いや意向の記録としては乏しい。	利用者本人の思いや意向を受け止めていき、職員全員が把握できるよう記録として小さな点でも記していく。	記録として本人から発せられた言葉や職員との会話を記録していき、その言葉や態度から本人の思いを推察していく。	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。